

国鉄 連絡駅	線 名	区 間	キロ程	単 複 線	動 力	軌 間	免・特許年月日	運輸開始年月日	営業の種別	摘 要
羽前高松	三 山 線	羽前高松・間 沢	11.4	単	電 気	1.067m	大正12・5・10 昭和 3・3・22	大正15・12・23 昭和 3・9・17	旅客・貨物	
糠ノ目	高 品 線	糠ノ目・二井宿	10.6	"	"	"	大正 9・6・19	大正11・3・16 大正13・8・31	"	
大石田	尾花沢線	大石田・尾花沢	2.6	"	蒸 気 内 燃	"	大正13・11・18	大正15・8・16	"	
		計	24.6							

沢鉄道(大石田・尾花沢間)を合併現在に至る。

2 地方鉄道線(上表)。

3 沿線の観光地

磐梯朝日国立公園(三山線間沢駅)、県立公園御所山(尾花沢線尾花沢駅)。

4 運輸概況

年 度	昭 和 28	29	30
項 目			
旅客輸送人員(千人)	2,475	2,539	2,620
人 キ ロ (千)	11,050	11,050	11,293
貨物輸送トン数(千t)	70	71	69
ト ン キ ロ (千)	389	389	370
旅 客 収 入(千円)	34,586	34,586	34,923
貨 物 収 入(〃)	12,173	12,173	11,918
運 輸 雑 収(〃)	1,493	1,493	1,445
収 入 合 計(〃)	48,253	48,253	48,286
営 業 費(〃)	52,752	52,752	52,850
営 業 利 益(〃)	△ 4,500	△ 4,500	△ 4,564
営 業 係 数(%)	109	109	105

(志村幹雄)

やまかわせん 山川線 鹿児島県揖宿郡山川町から同県枕崎市

に至る国鉄自動車路線であって、所管する自動車営業所は山川町にある。

1 区間・キロ程および沿革
山川本線

山川港・利永・薩摩別府・枕崎	45 km	昭 10・10・6 開業
山川港・竹山口・徳光	8	昭 31・12・25
西白沢・尾之上	2	昭 26・2・6

川尻線

東大山・川尻港・開聞嶽	10	昭 13・6・1
長崎鼻口・長崎鼻	2	昭 31・12・25

2 営業範囲 旅客・手小荷物および貨物の取扱をしている。

3 使 命 国鉄指宿線山川駅と南薩鉄道枕崎駅とを結ぶ鉄道敷設法予定線に該当し、鉄道の先行・短絡路線である。

4 特 長 九州の最南端薩摩半島の2大水産都市山川町と枕崎市とを結ぶ路線であって、沿線はほとんど平坦地で農産物の産出が多く、その上海岸に沿って至る処に風光明媚な処が多い。

南のはて薩南半島の突端にある開聞岳は薩摩富士とよばれ、その名のように富士を連想させる名山である。

九州最大の湖池田湖はほぼ円形の陥没火山湖であるが、開聞岳と同じ面積である関係から開聞岳の隆起によって陥落したという伝説もある。湖岸は北西の一部を除いては絶壁をなしており緑に囲まれたこん碧の静かなこの湖と、はるかに仰ぎ見る薩摩富士との対照的な眺めは実によい。開聞岳から指呼の間に望

まれる長崎鼻には、自生の蘇鉄がある。台風で有名な枕崎は古来から魚の町として知られ、ここを基点として南へ足を伸ばすと坊の津がある。ここは日本三津の1つであり、そのむかし僧や留学生がここから遣唐船で唐に渡り、また多くの文物が出入した。(松沢信之)

やまぐちせん 山口線 山陽本線小郡駅から東北方に進み、山口を経て山陰本線石見益田駅に至る 93.9 km の線。山陽線に属し線路等級は乙線である。大正 2・2 小郡から山口に至る鉄道として建設され山口線と呼ぶこととなった。その後延長され大正 12・4 山陰本線石見益田に達した。(森 梯寿)

やまだし 山出 山行ともいい、苗畑で養成した苗木を造林地に出すこと。山出苗、山出本数、山出年度等の語を用いる。(高村義次)

やまだせん 山田線 東北本線盛岡駅から太平洋岸に至り、宮古・陸中山田駅を経て釜石駅に至る 157.5 km の線。宮古・宮古港間 2.0 km の枝線を含み総営業キロ 159.5 km。東北線に属し、線路等級は盛岡・宮古間、宮古・宮古港間丙線、宮古・釜石間簡易線である。盛岡から宮古、山田を経て釜石を結ぶ鉄道の一部として、大正 12・10 盛岡・上米内間開通、山田線と呼称、昭和 3・9 上米内・区界間開通、昭和 14・9 釜石まで全通、また宮古・宮古港間は昭和 18・11 宮古港船車連絡貨物輸送のため建設した。なお平津戸・養目間は、昭和 23 年台風の被害を受け営業を停止したが、昭和 29・11 再開した。(森 梯寿)

やまとせん 山手線 東北本線赤羽駅から東京のいわゆる、山手地区にある池袋・高田馬場・新宿・渋谷・五反田等の駅を経て品川駅に至る 20.9 km と、池袋から東北本線田端駅に至る 5.2 km の線で、総営業キロ 26.1 km。東北線に属し線路等級は甲線である。明治 18・3 赤羽・板橋・新宿・品川間、明治 36・4 池袋・田端間と日本鉄道株式会社によって開通された。明治 39・11 鉄道国有法によって国鉄に移管山手線と呼称、明治 42・12 電車運転開始、大正 14・11 神田・上野間高架線の開通に伴ない東京・渋谷・池袋・上野・東京の環状運転を実施した。線名については東京は明治維新前から西北部を山の手、東南部を下町と称しており、この線路が山の手の方にあるので名付けた。線路名称の山手線は環状線の一部だけであることは前記のとおりである。(森 梯寿)

やまとてつどう 大和鉄道

1 事業者の概要

名称 大和鉄道株式会社、本社 奈良県磯城郡田原本町、資本金 1,000 万円、地方鉄道 17.6 km、従業員 64 人、保有車両なし(近畿日本鉄道株式会社より借入使用)。

沿革 明治 45・7・23 資本金 20 万円で田原本鉄道株式会社設立、大正 6 年大和鉄道と商号変更、同 7 年営業開始。同 11 年桜井・西名張間を、昭和 2 年名張・宇治山田間の免許をうけたが、同 6 月参宮急行電鉄(近畿日本鉄道の前身)へ譲渡、同 23・6 田原本・桜井間を電化、現在に至る。

2 地方鉄道線

奈良県にあり、国鉄関西本線王寺、桜井線桜井両駅に連絡、